

まこと

仏教青年連盟機関紙 151号



あゆみ

空をみあげると、大きな雲に大きな太陽
すーっと通る風

きつと、ずーっと多くのいのちも
同じ景色見てたんだろうな

顔も知らないし、話したこともないけれど
でも、繋がって繋がって繋がって・・・
今のわたしのあゆみになっている

一日一日のおかげさま

一日一日の大切なあゆみ

まこと・151号

目次

- 04 【特集】佐賀教区のおゆみ
- 06 【特集】山口教区のおゆみ
- 08 【特集】東海教区のおゆみ
- 10 心のふるさと交流事業「福島の子と私たち」ホームステイ
- 12 「2014 全国真宗青年の集い北海道大会」を覚えて
- 14 彼國の便り
- 15 編集後記



佐賀教区のあゆみ

佐賀教区仏教青年連盟は1986（昭和61）年に発足し「親鸞聖人を人生の師と仰ぎ、如来の本願を聞き開いて、生き甲斐ある人生を築こうとする青年の結合組織であり、常に運動を通じて、友情を深め、職能をみがき奉仕にはげみ、もって社会の福祉に寄与すること」を目的として現在まで活動してきました。

発足当初は門信徒中心の活動をしていましたが、徐々に活動主体が寺族中心となってまいりました。しかし、2002（平成14）年に佐賀で開催された「第29回九州地区真宗青年の集い佐賀大会」を契機に、当時の組長をはじめ、たくさんの方のお力添えをうけ、寺族中心の仏青から門信徒中心の仏青になるように活動を続けています。



その中の活動の一つとして佐賀教区では年5回「開法の会」という仏青世代の方々が若手僧侶による仏教・真宗のお話を聞く研修会を開催しています。門信徒の方が参加しやすくなるように、開始時間は仕事後でも来られる19時からとし、研修会の雰囲気もかたくならないように、コーヒーやお茶菓子などを出し、聞きやすい雰囲気作りにつとめています。内容は、お話を中心とした研修会で、「仏教・真宗について」ご講師よりお話をいただき、初めてお話を聞く人もわかりやすく、聞きやすいようにご配慮をいただいています。

また年に一度、長崎教区や福岡教区など近隣教区の仏青連盟にもご案内をして多数の参加をいただき他教区との交流をはかっています。毎回、少しでも参加しやすい、初めての人も参りやすい研修会になるよう努めています。

文・佐賀教区仏教青年連盟事務局
西山 是匡





山口教区のおゆみ

合いパーティー)を開催しました。初めての試みで、参加者が集まるのが不安でしたが、会員の口コミなどの努力もあって定員一杯のご参加をいただき、大盛況にて行事を終える事ができました。

現在、仏教青年連盟の活動ピーク時に比べると青年層の参加人数も減少し、活動の知名度も低くなっているように思います。活動休止状態の単位会も多く、決して仏教活動が盛んであるとは言えないでしょう。若い方にとって、お寺の敷居はまだまだ高いのかもしれませんが、今後は「お寺はみんなのもの」ということを、どんどん発信する必要があります。単位仏教からの参加だけではなく、様々な人が集える企画を、広く教区内に発信し、青年がみずから集まりたくなるような仏教青年連盟をめざしたいと思います。

文・山口教区仏教青年連盟事務局
桂 大智

山口教区仏教青年連盟は、1962(昭和37)年からスポーツ大会を行なうなど、1976(昭和51)年の規約施行前より活発に活動していました。教区内寺院単位の門徒を中心に組織され、歴代委員長はすべてご門徒の方、それを僧侶がサポートするという形で活動しています。山口別院で開かれる月一度の役員会で活動内容を検討し、主なる年行事として教区大会や寺族青年会との合同報恩講、またスポーツ大会などを開催しています。

昨年の教区大会は、新潟教区から「諸行無常ズ」の麻田弘潤さんをお迎えして「消しゴムはんこ作りのワークショップ」を開催しました。仏青会員だけでなく、普段なかなか緑のない幼稚園の先生方なども参加するなど大変盛り上がりしました。

また寺族青年会との合同報恩講では「Candle Night in Jodo」お寺で結ぶよいご縁」と題し、教区内の真宗寺院にて、寺コン(お寺でのお見





に参加した方とつながることに重点をおいた活動を心がけました。異業種交流会として食事会をしたり、イベント参加者が主催するイベントへ会員で参加したりするなど、発信だけでなく受信も大切に外へ出て交流を深めました。東海仏青結成25周年のつどいも開催し、本願寺の参拝見学をメインに、1泊2日で京都旅行を企画し多くの方に参加いただきました。

3年目は「つながる」。仏青というグループに関係をもった方同士が日常生活の中でも関係を築きながら共にほとけ様のご縁に遇えるような活動を心がけています。折々のイベントでも必ずお勤めをし、ご法話を聞く時間を設けています。少しずつではありますが仲間も増え、今後も活動を充実させていきたいと考えています。

文・東海教区仏教青年連盟事務局
田中 大真



東海教区のおゆみ

東海教区仏教青年連盟は、1988（昭和63）年に発足しました。3年前、2012年度から「つながる」をテーマとして活動を展開してきました。

最初の1年目は「つながる」。仏青会員がつながること、親密になることを心がける年になりました。各々がやりたいことを発案・企画・案内・実行する。それにみんなで参加し交友を深めました。その上で、お寺に縁のない方、仏青を知らない人を対象にヨガイベントを開催しました。併せて僧侶との交流を目的とした「僧侶と夜ごはん」も参加者が普段関わりのない僧侶と一緒に話す時間を持つことができると大変好評をいただいております。

2年目は「つながる」。模擬仏前結婚式やキャンドル作り、ナイトジョギングなど継続したイベントと併せて、前年の仏青で企画したイベント



心のふるさと交流事業 「福島の子どもたち」ホームステイ

「そういえば久しぶりに見たんだけど、まだ東日本の方でボランティアしている人たちがいるんだね。」

昨日友人と、話をしているときに聞いた一言だった。
最近では、なかなかテレビなどで東日本大震災関連の話もでてこず、震災があったのは覚えてはいるけれど忘れてしまっている人も、多いのではないだろうか。実際、2年前に私が仙台を訪れたとき、仙台駅周辺は本当に地震があったのか、と疑う程に復興をしていた。しかし、その周辺から少し車を走らせる、更地があったり、仮設住宅などが建ち並んでいたりと、まだまだ完全な復興にはいたっていないことを感じた。街の景観や物資というかたちでの支援は足りてきているようだが、ボランティアなど現地での支援は減ってきているように思うと同時に、復興をしていく中においても、まだまだ被災された方の深い心の傷、ストレスなどは、なかなか癒えないものだと思う。
そんな中、知り合いの僧侶の方々が有志で行っているプロジェクトの話聞いた。そのプロジェクトとは、被災地の子どもたちを何日間かホームステイという形で支援する活動である。成り立ちは、鹿児島県の僧侶の方々が有志で何かできることはないか考え始めたそう、今年の夏で4年目になる。この支援活動の主な内容は、放射能の問題などで外で遊ぶ

ことのできない子どもたちや、遊びに連れて行きたいけれど、なかなか子どもを連れて遊びに行けない保護者の方々を対象としたもので、今では10教区が、この支援活動に携わっている。参加者も毎年多いが、いまだにお寺の復興が追いつかず、この活動に携わっている方にお話を聞きますと、ホームステイに来た子どもたちが、「お外で遊んでいいの?」と尋ねてきたり、保護者からは、「テレビや新聞では知らない現状を知ることができるとおっしゃっていた。」



このようにこれからの支援活動で大事なことは、長期的持続可能な支援活動であるということと、今どのような支援活動を求めているのか見極めることであると感じた。時間の経過とともに、記憶から風化しはじめている東日本大震災であるが、まだ東日本では、震災は終わっていない。これから東日本だけに限らず被災地において一人ひとりが改めて何ができるかを考えていかなければならないと思う。

文・上高原 直樹

「2014 全国真宗青年の集い北海道大会」を終えて



2014(平成26)年7月26日(土)～27日(日)に行われた「2014 全国真宗青年の集い北海道大会」では、ご門主様ご臨席のもと、多くの皆様にご参加いただき、本当にありがとうございました。北海道教区仏教青年連盟として大会を準備・運営し無事に終えることができ、ホッとしているのと同時に、毎年開催では最後という大会において、実行委員長という貴重な経験をさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

「大自然」仏教未来を描け」を大空テーマや内容について、何度か会議を重ね、時には意見の分岐や、一つのことに対して長時間の話し合いをしながらも、北海道教区全員で「やりたいこと・やってみたいことをしよう」「青年門徒を主体とし、僧侶・寺族が支える北海道教区の形を新しいスタイルとして伝えたい」そして何より、今一度仏教の楽しさを伝えよう！という思いのこもる宣言を迎えました。

まず1日目のプログラム。今までの全国大会の映像と教区内の若手僧侶の方々にご協力をいただいた若手男性合唱による「正信讃」で開会式が始まりました。その後、下手でもいい、恥ずかしくていいから、今大切なことを自分たちで伝えたいと練習を重ねた朗読劇「自然」をテーマに、仏教メンバーが演じました。ものがあふれている時代になかなか幸せを感じるの難しい私たち。本当の幸せとは何か、大切なものは何か。人もまた自然の一部であり、生かされて生きている。朗読劇を通して、見つめなおすことができました。

そして「2014」では、一度おこなってみたいかった、お寺でのファッション&ヘアショー。ゼロからのスタートでしたが、色々な方のご縁によって、素晴らしいショーとなりました。仏前結婚式の素晴らしさも改めて実感するとともに、一般の方々の観覧もあつたのでたくさんの方に知ってもらえたことができたと思います。

2日目は、朝のおつとめをし、基調講演では大平光代さんにお話しいただき、大平さんの半生や、日々関わっている非行に走る子どもたちについてなど話していただきました。最後のプログラムでは北海道教区中央委員の北橋誠さんより、「仏教未来を描け」のプレゼンがあり、寺族・門徒に分かれグループディスカッションを行い、仏教について様々な意見・熱い思いが飛び交い、あっという間の時間となりました。

皆さんは大会が終わって教区に
戻り、仏教について何を考え、どんな未来を描きましたか？
私は、全国大会でより絆が深まった北海道教区のメンバーと、仏教について熱く語り合いながら、次はどんな楽しいことをしよう。教区が盛り上がり活性化していくためには、何ができるかを考えて仏教を楽しんでいきたいと思っています。
文・大会実行委員長 上野 美佳



編集後記

17: 以下、\ (^o^)/ で上高原直樹がお送りします

今回のテーマ『歩み』私の人生23年間をふりかえってみると、さまざまな事を体験し、周囲の方々にお育ていただいているんだ、と感じさせるテーマでした。これからも、支えてもらいながら、また自分も支えながら、一步一步、歩いていけたらなあ...

18: 以下、\ (^o^)/ で海野康成がお送りします

今回の makoto151 号のテーマは、『歩み』でした。今年には法統継承式が行われ、新門様が第25代のご門主様にご就任されました。また西本願寺の本堂と御影堂を含む境内の建物が国宝に指定され、お祝い事が続きました。自分自身を振り返ってみると、今年、得度式(僧侶になる儀式)を受式して10年になります。「あっという間の10年だったなあ〜」としみじみ感じる今日この頃です。

19: 以下、\ (^o^)/ でVIP野口哲城がお送りします

車を換えました。最近スマホの無線で高音質の音楽を聞くことができます。浜崎あゆみさんの evolution って曲がかっこよかったです。けど、、、やっぱ安室ちゃんのほうがセクシーでかっこいいよね www

20: 以下、\ (^o^)/ でVIP田中慎也がお送りします

先日大好きな劇団四季のミュージカル『ライオンキング』を観に行きました。10年ぶり観劇したのですが、ラストの観客総立ちのスタンディングオーベーションで涙が出るくらい感動して、高揚感半端なかった！「生きてよかったw」って心から思いました。非日常の楽しさがあると、日々の辛い仕事もがんばれますよね。また来年も観に行きます！！

21: 以下、\ (^o^)/ でVIP巖根眞弥がお送りします

3年間ありがとうございました！まことの制作に携われて、何気ない生活の中にも多くの気づきがあることを知ることができました。今回の151号で広報委員として最後となり非常に残念ですが、今後とも是非、『makoto』をよろしくお願いします！

彼國の便り

以前見た、駅の構内に貼ってあったミネラルウォーターの広告ポスターに、
飾れば飾るほどカッコ悪くなる

余計なことはかりして来た気がする

と書いてあった。みんながみんな、自分を飾ろうと一生懸命の世の中にあつて、一瞬、我が姿はどうかという問いを導いてくれた言葉でした。

自分の外側を飾ることすべてが、余計なことではないのかもしれない。しかし、飾ることによって見えなくなってしまうこともあるのではないかと思う。

「虚偽」という言葉がある。「虚」は「うわべだけでむなし」「偽」は「人為なごまかし、つくろい」という意味。良し悪しも含めきつとそんな事も気づかずに繰り返している私がいるのではないだろうか。

自分の「虚偽」を浮かび上がらせ気付かせてくださる阿弥陀如来のみ教えに、出遇わせていただくことが、真実に遇う道なのだとお示しくくださった親鸞聖人。ありのままの自分を、そのまま受け入れる世界。それを仏親阿弥陀様に説かれる「浄土」とお伝えくださったのです。

阿弥陀仏の浄土に咲く蓮の花のありさまを詠った「青色青光黄色黄光赤光赤光白光白光」は、お互いに傷つけ合うのではなく、助け合って生きることが、自分らしく光り輝いて生きることを実現する道なのだ教えています。その道を、私たちは歩み続けるのです。

そのご縁に触れ、そして歩み続ける「人」を「念仏者」というのです。

文・藤井 寿昭
(仏教青年連盟指導講師)

まこと 151号

浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟機関紙 二〇一五年一月七日発行 印刷・創文堂印刷株式会社
編集／発行・仏教青年連盟広報委員会 〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派宗務所内



赤・青・緑・紫で四色展開



腕輪念珠・二百円

お問い合わせ：浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟
TEL：075-371-5181 (代) yba@hongwanji.or.jp

Makoto No.151

<http://p.booklog.jp/book/96627>

著者 : bussei

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/bussei/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/96627>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/96627>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ